佳作
（子どもの部）

「自分だけの」とは何か

第三日暮里小学校　六年
篠田　七緒

柳田邦男先生へ

ぼくは、「ウエズレーの国」という本を選びました。この本は、主人公のウエズレーという少年がある日お父さんから「いまにきっとやくだつさ」といわれとつぜん「自分だけの作物をそだてて、自分だけの文明をつくるんだ」とひらめきました。

そして自分だけの文字や作物、文明をつくりやがては、自分の家の庭に自分の国をつくり前は一人ぼっちだったが、次第に友達ができるお話です。

この本を読んでぼくは、物事を始めるときはまず自分で努力したり自分で考えてやることが大切だというのをこのウエズリーが自分で自分の国をつくるという場面から思いました。

前の自分は主人公のウエズリーのように、「自分で」、「自分だけ」というオリジナリティがなく、まわりの人達の考えをマネしたりして自分で考えようとすることをあまりしていなかったのですが、この本を読んで「自分で」、「自分だけ」というオリジナリティがあると他の人にはマネできない独自の発想ややり方が生まれることについて深く気づかされました。だから、これからは少しはまわりの人達のマネをしてもそれ以外のことでは、自分だけの発想ややり方をして誰にもマネできない、「最高」のことをしていきたいと思います。